

岡山県の歯の神様、仏様探訪

元岡山大学歯学部准教授

高木 慎

はじめに

日常、我々歯科医は歯痛に苦しむ患者さんが局所麻酔や天蓋開削により険しい顔がほっと和み安堵する時、仕事のやりがいを感じるものである。

しかし、私は哲西町や吉備中央町円城を訪れた際、たまたま「歯いた地蔵」の看板を見つけたことから、人々は局所麻酔のなかった時代、特別な疼痛の歯痛に対し神仏を拝むしかなかったのではないかと思い、歯の神様、仏様に興味を持った。成田¹⁾も現代のように歯科学が発達していなかった以前は、人々は歯痛に苦しんだ時、そう簡単に抜くこともできず、神に祈ったり、さまざまの呪いをして耐えたのである。それらを垣間見ると、今でこそ馬鹿らしい、何ら効果もない筈の非科学的なこれらの行為は決して笑うことのできない必死の神頼みであったものと推察されると述べている。また、神津³⁾は歯の神様は田の神、屋敷神、白山神社、弥勒菩薩、地蔵菩薩、如意輪観音などが歯痛に悩む庶民からおがまれて歯の神様となっていた。これらの神仏は身近にあったからこそ、人々の悩みや願いをきいて、人々と共に存在してきたのであろう。また、医療保険制度の充実とともに疾病はもはや信仰や習俗を必要としない状態にあり、土俗信仰の神々は滅びる運命にあるのではないかと述べ、また、森⁴⁾も庶民の医療知識の向上、国民皆保険の実施、医療技術の進歩は民間医療信仰や民間薬・俗信を急速に衰退させ、特に歯科領域での民俗は最も急速に消滅しつつあると述べている。

そこで、歯の神様、仏様について調べてみると、よはい草²⁾に94箇所の記載があり、神津³⁾は教育委員会の協力のもと長野県を調べ86か所の歯の神様を報告、森⁴⁾は221か所の歯の神様、仏様を報告、高木⁵⁾は宮崎県の33か所を記載している。また、歯科医師会のHP(ホームページ)内のテーマパーク8020では歯の神様は全国で46か所の記載があるが、中国地方の記載はみられない。岡山県に限れば、よはい草²⁾にも、歯科医師会のテーマパークにも記載がなく、森⁴⁾の調べで2箇所の記載があるのみである。そこで岡山県の歯の神様、仏様を調べてみたところ、36か所の存在を認め、訪れてみたが9か所は不明であった。このように岡山県でも社会の進歩により歯の神様は忘れられようとしており、私はほとんど記録されていない岡山県の歯の神様、仏様を記録することを試みた。

岡山県内の歯の神様、仏様

岡山県の歯の神仏を調べた限り 36 か所の存在を認めたが、9 か所は不明であった。それらについて森⁴⁾の分類を参考に分類した。白山神社関係 5 か所（不明 1）、九頭龍権現 2 か所（不明 2）、樹木、石 4 か所、歯痛地藏 4 か所（不明 1）、あごなし地藏 2 か所（不明 1）、如意輪観音あるいは弥勒菩薩 2 か所、歯の神仏になった人 6 か所、首塚、首無し地藏各 1 か所、お守り 1 か所、その他 9 か所（不明 4）であった。

これらについて説明する。

1) 白山神社関係（5 か所、不明 1）

神津³⁾によれば白山神社は白山国立公園にある白山（2702m）の白山比咩神社で、日本 3 名山の一つとして古くから信仰の山として知られ、全国各地に分社を持ち白蛇がご神体で商業の守り神とする神社である。高木⁵⁾によれば、本来、白山信仰は歯の神との直接的関係はないとされるが、白山神社が歯の神として歯痛平癒祈願の対象となる事例は、全国的にも数多く見られる。広辞苑⁶⁾で見ると「歯くさ」とは歯の病気と説明され、「はくさ」が「白山」との語呂合わせにより歯の神になったと考えられている。しかし、小松市の中山春比古歯科医が送ってくれた白山比咩神社のパンフレットおよび「白癒守」によれば白山比咩神社が令和 4 年 3 月より歯痛のお守り「白癒守」を発売したとのことである。

(1) 白山神社（岡山市北区首部）

神社のパンフレットによると、885 年に加賀国白山比咩神社の分霊として白山権現として勧請されたのが始まりで、ご利益として歯痛平癒が記載され、説明板にも記載されていた。

（北緯 34° 41' 9"、東経 133° 53' 47"、193° 南向き、高度 10m）



白山神社のご利益

白山神社は古くから歯痛を鎮めたり、航海の安全など数多くのご利益があるとされています。また、祭神の菊理姫命は男女の仲を「くくく」に取り持つと言われ、縁結びの神様としても有名です。

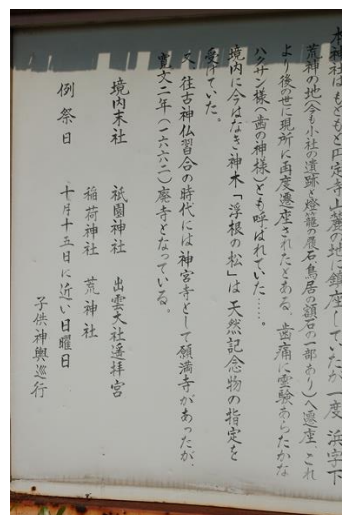
- 縁結び
- 歯痛平癒
- 商売繁盛
- 合格祈願
- 家内安全
- 航海安全
- 五穀豊穡
- 商談成立

(2) 歯痛の神：豊原角神社（岡山市西大寺浜字下堤）

神社の説明板によると、ご祭神は豊原角の神（白山比咩の大神とも）。古くは豊原角明神と言われており、次第に白山権現と称されるようになり、明治2年（1869）白山神社と改め、同3年豊原角神社と旧社名に復した。いつの時代に加賀国霊峰白山の神を迎えたのか不明だが、ご神紋が石川県の白山比咩神社と同じである。歯痛に霊験あらたかなハクサン様（歯の神様）とも呼ばれていた。そのため、歯痛にあらたかといわれていると記載されている。

白山神社と改名されたことがあり、はくさ→白山神社→歯の神様にちなむと思われる。岡山市西大寺の吉井川の東岸にあり、写真の如く説明板があった。

（149° 南東、北緯 34° 38' 59"、東経 134° 2' 26"）



(3) 白山神社（瀬戸内市牛窓町牛窓天神社境内）

牛窓町歯科医馬場正重先生によると子供の頃、歯科医の父親より歯が痛い時白山様で拝むよう教えられ、お参りしていたそうである。「はくさ」→白山神社→歯の神様に通じる概念と思われる。

馬場正重先生の案内で訪ねると牛窓天神社の左脇に白山神社と明記された、小さな祠があった。



牛窓天神社



白山神社



(4) 白山神社（津山市金井 1117 番地）

津山の民話⁷⁾、大崎の歴史と文化神社編⁸⁾によれば、今から 220 年前に、上総佐倉城主堀田正順公の息子が、歯痛に長い間苦しんでいて、西吉田陣屋西詰の佐治三左衛門が白山神社は歯痛に霊験著しきを言上しました。領主堀田正順公は、佐治三左衛門に命じて神主山城守に歯痛平癒の祈願をさせたところ、たちまち歯痛は止まりました。領主堀田正順公は大変喜び、同年米二石を修繕料として寄進しました。その時以来、歯痛平癒、流疫対除、安産守護に御霊験あらたかで参拝者は耐えることがありませんと記載されている。

令和 2 年 7 月 18 日に訪問した際には、平成 28 年新製された石造りの鳥居が立ち、拝殿も新製されたようであったが、奥の本殿部分は古いままであった。7 月 25 日が夏祭りの予定とのことであるが、新型コロナの流行のためか、人が入った形跡はなく、説明文も無かった。





(5) 白山神（美咲町大蔵）＊未確認

旭町誌^{9,10)}によれば、昭和の初め、大蔵の近くには歯医者がなかったので、歯の神様として大谷から石を運び、白山神と名付けたという。歯痛の人が、萩の木で、自分の歳の数だけ箸を造ってお祭りすればよくきくと言われている。

美咲町役場で尋ね、2回訪問するも雑草で見えないのか確認できなかった。近所の人もあると知らずとしか分からなかった。また、別村の湯木正道様によると子供の頃おばあさんに連れられてお参りしたことがあり、案内するよと言って頂いたが、まだ、行けていない。

2. 九頭龍権現

神津³⁾によれば、九頭龍権現は戸隠の地主神として戸隠神社より古くからあって、水の神、農耕の神として栄え、歯が痛い時の請願や呪に梨を介して歯の神様とされてきた。梨をあげて祈り、梨を絶って祈り、梨を川や海に流して祈ることが、穢れや災厄を人形に託して川や海に流す祓行事と同じ発想で歯痛を梨に託して持ち去ってもらうことになる。これは佃祭という落語のオチに出てくるということは庶民生活に浸透していたことであると述べている。ここに九頭龍権現が歯痛の神様の所以が見える。

(1) 歯痛の神：九頭龍権現（井原市西江原町瑞龍山正雲寺境内）

井原市史民俗編¹¹⁾によれば、西江原町の正雲寺に祀られている九頭龍権現は歯痛の神である。歯が痛い時、豆腐1丁を供えてお願いすると効験がある。毎年7月に夏祭りが行われていたが戦後途絶えたと記載されている。

実際、正雲寺にお伺いし、寺の方にお尋ねしたところ、先々代まではお祀りしていたが、現在は行っていないとのことだった。



(2) 九頭龍大権現（真庭市藤森）＊未確認

二川の民俗¹²⁾によると、藤森の城主が毛利と尼子の合戦の時滅ぼされ、弟がのがれて藤森の田口家の祖先となり、その城山の中腹の滝のほとりに城の守護神として九頭龍権現を祀った。3月18日が祭日で部落の人々も参り、昔は物売り人も来て盛大であった。歯痛を癒すによく効いたと伝えられると記載されている。地元の人に尋ねたり、藤森の城主の城があった飯山城に登ってみたが、滝も九頭龍権現も分らなかった。

3. 樹木、石

森⁴⁾によれば、房楊枝を供えて口中一切の病の治癒を祈願したり、先の尖った長い石を歯牙、ことに犬歯に見立てて祀るなどの信仰があった。

(1) 天狗大杉（高梁市巨瀬町祇園寺）

高梁市の観光パンフレットに「祇園寺の大杉の皮を噛むと歯痛に効験がある」と記載されている。野口ら¹³⁾によればこの杉には天狗が時々来て遊ぶと言うのでこの名があるが、歯が痛んだ時この杉の皮をかめば歯痛が治るなど人々のこの神秘的な杉に対する信仰は厚いと記載されている。また、有漢の民族¹⁴⁾には植物性民間薬療法の中に歯痛の時は祇園の大杉の皮をかむとよいと記載されている。

祇園寺を訪ねてみると囲いの中に大きな杉があり、しめ縄がかかっており、皮も剥ぎ易そうであったが、説明はなかった。





(2) 蓮華石（岡山市岡山城）＊未確認

岡山城の HP に「鉄門を入ると蓮華石があり、さすると歯痛に効験がある」と記載され、岡山城 4 階に岡山城 7 不思議の一つとして公開されていた。

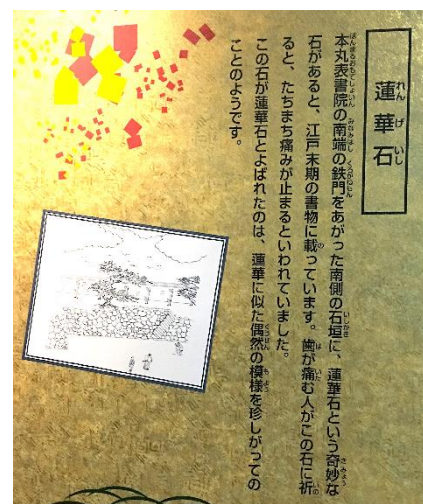
この出所を事務の方に尋ねると「岡山名所図会稿本（昭和 37 年復刻）¹⁵⁾」を示して頂いた。その中に「御城内にこし懸けの南の石垣に蓮華のかたほりたる石あり。其いわれしらねと歯痛せるもの此石をいのれは忽ちわきしるしあり、世の人蓮華石といふ。」と記載されていた。

しかし、どの石かははっきりしないようで、訪問した時に尋ねたボランティアの女性から蓮華の花のようだからと紹介された石の写真を撮った。

令和 5 年岡山城は改装され、蓮華石についても写真のように説明が変化し、岡山県出身歴史学者磯田道史さんの説明になった。それによれば、磯田さんは蓮華石を子供の頃から探しても見つからず、現在、蓮華石があったという場所も見つからず、岡山の人たちはどうしたのでしょうか？実は英語習得の早かった高山弥太郎（紀斎）が、アメリカから世界最先端の歯科治療を学んで帰国し、それで明治時代になって岡山の武士が続々と歯医者さんになり蓮華石がなくても岡山の人たちは歯の痛みを治せるようになりましたと記載されている。高山紀斎は東京歯科大学前身の高山歯科医学院の創設者である。



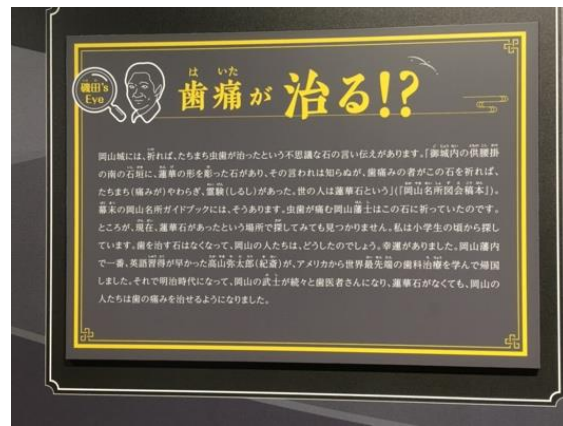
岡山名所図会稿本（昭和 37 年復刻）¹⁵⁾ の蓮華石



岡山城七不思議の蓮華石



蓮華石と言われる石



令和5年岡山城改装後蓮華石の説明

(3) 本蓮寺本堂（瀬戸内市牛窓町牛窓）

市川¹⁶⁾によると、本堂の円柱の外側のものは、柱をけずりとりせんじて飲むと歯痛がとまるという伝えで、削られていると記載されている。

牛窓の本蓮寺を尋ねると街並みの背景にある万壺山にあり、石段を上がり総門、境内に本堂、客殿、祖師堂、三重塔、鐘楼、両祖廟などがあつた。市川¹⁶⁾を参考に、本堂の柱の削り跡と思われるところを探して写真を撮ってみた。しかし、牛窓町歯科医馬場正重先生によれば、重要文化財に指定され、以後、削れなくなったとのことである。

(151° 南東、北緯 34° 36' 59"、東経 134° 9' 51")



(4) 「おこり落とし神」(笠岡市大島中十地)

笠岡市大島地域の神社一覧の HP 中に「おこり落とし神」歯痛と受験に靈驗あらたかなる巷の神々のひとつと記載があった。

また、大島歴史散歩¹⁷⁾によれば、県道 406 号線と十地地区への市道の三叉路に「おこり落とし様」が祀られています。ご神体は不思議な形の高さ 60cm ほどの自然石で、両側に同じような石像を従えているように見えます。境内の南天の葉が歯痛に効くと評判だったようです。合格祈願に遠路お参りされる人もあって、地元では親しく「おこりさま」と呼んでいますと記載されている。

笠岡市大島を訪れてみると、十地のバス停から約 10m の道脇に、後ろに南天の木があり、3 個の独特の石が並び、前に祭壇があり、花筒、小さな鳥居が立てかけてあった。(北緯 34° 23' 42.5"、東経 133° 33' 36.5")



4. 歯痛地藏

森⁴⁾によれば地藏菩薩は六道の辻に立ち救済にあたり、峠や辻に祀られ、庶民の生活に溶け込み、庶民の現世利益の仏として信仰されるに至った。ことに子供や病者など弱者を救う神として信じられ、子安地藏、夜泣き地藏、歯痛地藏、延命地藏など庶民の願いを聞き入れる仏として地藏信仰が盛んになったと記載されている。

(1) 歯いた地藏(吉備中央町円城)

吉備中央町円城道の駅の近くで「歯いた地藏」の看板を見つけた。小高い山の脇で大きな杉の木の根元に秋の枯れ葉に埋もれたようにお地藏様が鎮座していた。その説明板には「歯痛の時、焼いた黒豆をお供えすれば、癒えるという言い伝えから古くより歯いた地藏と呼ばれ、親しまれています。」と書かれていた。

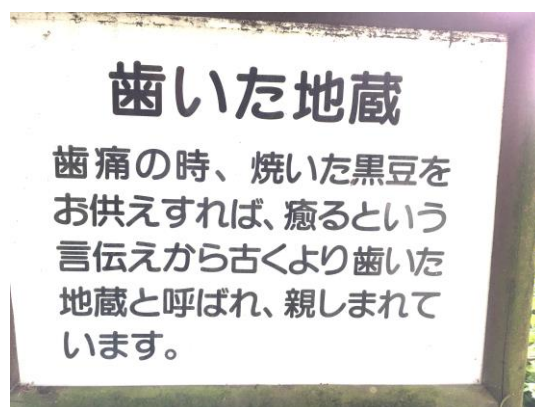
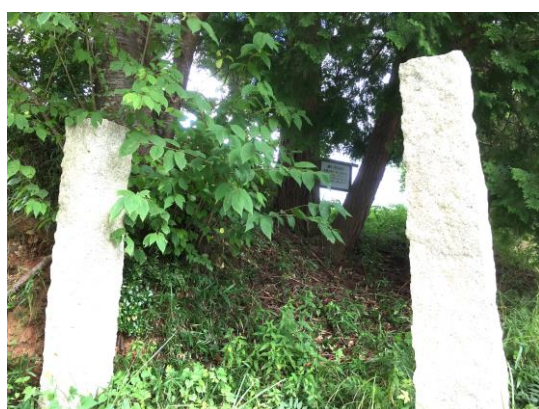
森⁴⁾は円城という集落の道路わきの小高い所に「歯いた地藏」の立て看板があり、高さ約 50cm の石組の祠があり、中に 25cm ほどの坐像の石地藏が入っていた。かなり古いもので顔の目鼻だちも明らかでない。現在歯痛信仰はないようだが、地藏さんとして祀られていて、小銭や赤白の幟が立てられていたと記載されている。

また、加茂川町の民族¹⁸⁾によれば、歯痛には円城でハイタの地藏さんに参ると記載されている。

なお、この歯いた地藏は石の囲いの中にあるが、三浦¹⁹⁾によれば、岡山下では神を祀る設けに三方に石を積み上にふた石を置いたものを（石）クドと呼んでいる例がある。備前北部、備中の中央部から南よりに見られると述べている。この例もクドと思われる。

石門を入り小高い丘を登ると正面に歯いた地藏という看板があり、その脇の大きな木の根元に石祠（クド）があり、枯れ葉に埋もれるように、中に石地藏があった。令和4年11月5日の訪問時には杉の枯れ枝、葉で埋もれそうであった。

（北緯 34° 33′ 26″、東経 133° 48′ 1″ 226° 南西）



(3) 歯痛を治す地蔵（吉備中央町宮地）

岡山「へそのまち」の民話²⁰⁾によれば宮地の田和という所の畑のほとりに、石の祠があって、中に2体の石のお地蔵さんが祀ってある。歯が痛くなったら歯の数だけ小豆を持ってお参りに行くと、痛みがなくなると聞いてると記載されている。町役場から述者の木村宮子様を紹介頂いて、お伺いし、木村様宅の裏の歯痛を治す地蔵を案内して頂いた。小高い丘の斜面に彫り込んだように石組みの空間があり、その中に彫った地蔵2体が祀られていた。

歯痛を治す地蔵①²⁰⁾として記載されたものも同じものと思われる。それによると、歯が痛くなったら、地蔵の頬を撫でて、自分の頬を撫でれば良くなったとのことである。

この例も三方を石で囲みふた石を置いているので、三浦¹⁹⁾によるクドと呼ばれるものと思われる。



(4) 松田の歯地蔵様（久米郡美咲町松田）

旭町誌^{9,10)}によると、六角塔で、宝永年間に建てられたものという。大豆を炒って持って参り、炒豆がはえるまで歯を痛めないで下さいと祈ると、ご利益があると言われた⁹⁾と記載されている。

探して行く途中出会った近所の福島仲治様が案内して下さったが、福島様によると子供の頃からお参りしていたので100年位前からあるのではないかと、豆を持ってお参りしていたとのこと。

森の枯葉の中で手前に歯地蔵尊と説明碑があり、その後上方に六角形の石の宝篋印塔があった。（北緯 34° 55' 17"、東経 133° 40' 30"、高度 390m）



5. アゴナシ地蔵

森⁴⁾は、顎無地蔵の名の由来は種々あるが、隠岐島の阿古奈の歯痛が原因で造像され、それが後に歯痛信仰となったという説が最も多いと述べている。戸部²¹⁾によると顎無地蔵は歯や歯痛の守り神として庶民の信頼を集めている。文字通り歯に直接関係する体の部位に因んだ呼び名である。一般に「あごなし」地蔵像は「顎」の部分が欠けていることが多く、顎がないから歯もない、歯の病気にも縁がないということらしいと書いている。

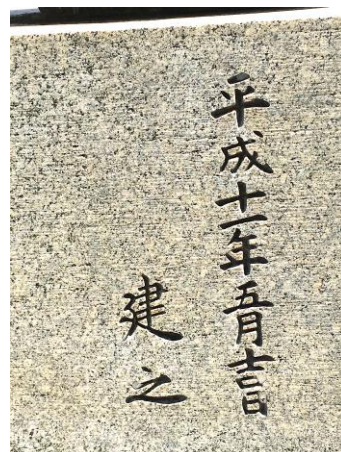
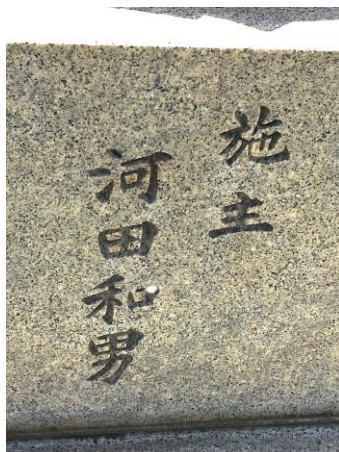
(1) オキノ国アゴナシ地蔵（玉野市日比、日比観音院）

日比観音院のHPによると、平安時代の歌人、役人で、地獄との使者であった小野篁が隠岐に流された間の伝説の一つ。「阿古奈地蔵」と言われていたのが、いつのまにか「あごなし地蔵」となった。歯痛止めの地蔵さんとして信仰されるようになっていきますと記載されていた。長谷川²²⁾によると「歯の痛みは隠岐の国アゴナシ地蔵を信心せよ。」とされていたようだ。

日比観音院を訪問すると、寺の上がり口の階段右脇にアゴナシ地蔵があり、お参りする人があるようで、花、コウヤマキ、お賽銭がお供えされていた。平成11年5月吉日建立、施主河田和男と彫られていた。

令和4年再度訪問した際、由来についてお寺の方に尋ねたがご存知なかった。

(北緯 34° 27' 27"、東経 133° 55' 18"、高度 20m、南西 235° 向き)



(2) あごなし地蔵（奈義町宮内竹の下尾崎）＊未確認

立石、なぎ昔話語りの会²³⁾によれば、宮内竹の下尾崎の薬師堂内に祀られて、地蔵の顔の左下部が欠けている。なるほど「あごなし」である。顔面、ことにあごの部分の病気の時、歯痛などのとき祈る。地蔵と並んで、これも相当風化している宝篋印塔が祀られていると記載されている。

奈義町文化センター寺坂信也様に調べて頂いたが、「どうも道の拡幅工事で移動し、その後不明となった。」と連絡いただいた。

6. 如意輪観音あるいは弥勒菩薩

森⁴⁾は右頬に右手を当てがった思惟形の像形が歯痛に悩む姿に似ているところから歯痛信仰に結びついたと述べている。

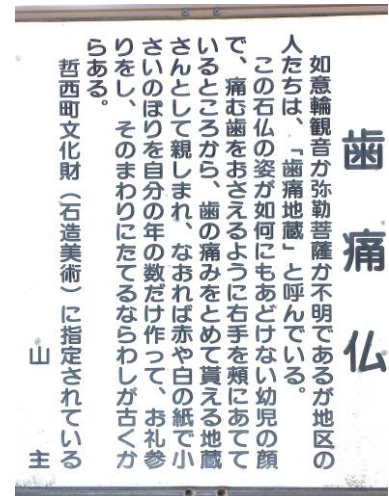
(1) 歯痛仏（哲西町明本寺）

哲西町の資料^{24, 25)}によれば、哲西町八鳥町区に、土地の人々から歯痛仏と親しまれている小さい石仏がある。歯が痛むと、ここに詣で、祈念をする。なおれば赤や白の紙で小さいのぼりを自分の年の数だけ作ってお礼参りをし、そのまわりにたてるならわしがある。この石仏の姿が、痛む歯をおさえるように右手を頬にあてている。坐像で僅かに右足を上げ、右手の肘がそれに載っている。如意輪観音か、あるいは弥勒菩薩か、さだかにはわからない。容姿はまことに美しい。初め啜（なわて）向こうの毘沙門さんの丘の麓、草の中に馬頭観音とともに置かれていたが、今は明本寺境内に移されている。

また、岡山のごりやくさん²⁶⁾によれば坐像の高さは約30cm、まるで幼児が痛む歯を押さえているかのような姿。なんとも言えない愛きょうのある顔、姿。思わず触りたくなるような風情である。交通網の発達していない時代である。しかも医療には恵まれなかった山深い里。歯の痛みを覚えた人々がずい分お参りしたことだったろうとも記載されている。

明本寺の正門を入り左に屋根の付いたお地蔵さんが見られ、歯痛仏の説明板もあり、優しい顔の綺麗なお地蔵様で、頬を抑えるように右手を右頬に当てていた。寺内なので周囲も綺麗に掃除され、花も供えられていた。





(2) 歯痛のお大師様（井原市青野町池之内青野四国 34 番札所）

井原市史民族編¹¹⁾によれば、お堂の中に薬師如来、弥勒菩薩、弘法太師が祀られ、「歯痛を止めるお大師様」と呼ばれる。半跏思惟像の弥勒菩薩の姿が、歯痛で右頬を押さえているようにみえることから、歯痛の神として信仰されていたようだ。参拝者は、お供えをして、自分の歯の痛いところとお大師さま（弥勒菩薩のこと）をさすって拝むという。台座に「文政11年12月6日」と刻されている。

訪問するとお堂の中に3体あり、左端の半思惟像の弥勒菩薩の姿が、右手を右頬に添えているように見え、歯痛の神として信仰されていたようだが、それとしての説明はなかった。

(124° 南東、北緯 34° 37' 13"、東経 133° 27' 58")



7. 歯の神仏になった人々

森⁴⁾によれば、多くはその人たちの没後に、歯に悩む人やその親族によって付会された物であると述べ、生前に歯痛に悩まされて、死後を弔ってくれたら世の歯痛に苦しむ人々を救ってあげようと遺言した例に岡山県の治歯痛精霊墓、また、亡くなった人が生前歯を患っていたために死後その墓が歯痛信仰になった例として、岡山市小早川秀秋の墓をあげている。

(1) 篠山城主伊谷河内守の墓（佐良山村大字高尾＝現在津山市高尾）

久米郡誌²⁷⁾によると篠山の城主伊谷長昌は赤松左京大夫政村の戦いに敗れ、窃かに後門から逃亡して湯谷に至る途中流れ矢に中って戦死した。墓は五輪の塔であって、頭痛、歯痛にご利益があるといって参拝するものがあると記載されている。

津山瓦版²⁸⁾によると数年前までは、近くの皆さんが「入谷様」と称する集いを催し、霊をお慰めしており、古老の話では碑の下にお墓があると記載されていた。

佐良山駅の北方で国道 53 号線から津山線の踏切を渡ると、民家の庭先に「佐良山城主入谷河内守源長昌之墓」の石碑とガラス製のお堂が見られた。

令和 6 年 7 月 13 日再度訪れた際には左側のお堂が写真のように新しくなっていた。

(346° 北、北緯 35° 2' 5"、東経 133° 57' 57")



令和 6 年 7 月 13 日再度訪問時

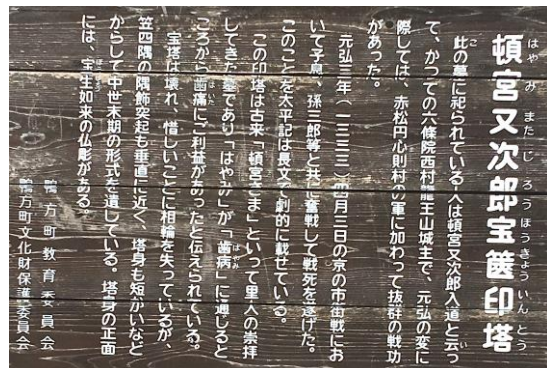
(2) 頓宮（はやみ）又次郎宝篋印塔（浅口市鴨方町六条院西）

鴨方町史民俗編²⁹⁾では、六条院西、城殿山の頓宮又次郎入道の墓と伝えられている宝篋印塔は、出土したものではなく、昔からそこに立っていたもので、頓宮は、「ハヤミ」と読むため、歯病みに通じるところから「セキトウサマ」といって、歯の神として参る人が多い。相輪を欠いているが、台石から全て小米石である。現在は、相輪の代わりに、宝篋印塔の小米石の小さい笠石を載せている。塔身には正面のタラークに当たるところに仏像を刻み、キリーク・アク・ウーンの四波羅蜜の梵字を刻んでいる。基礎石には格狭間はなく、ほかに銘文もなく、この墓には金鶏伝説があると記載されている。

鴨方町教育委員会・鴨方町文化財保護委員会による説明板によると、頓宮又次郎は、かつての六条院西村龍王山城主で元寇の変に際しては、赤松円心則村の軍に加わって抜群の戦功があった。元弘3年の京の市街戦に置いて奮戦して戦死した。この印塔は古来「頓宮さま」といって里人の崇拝してきた墓であり、「はやみ」が「歯病（はやみ）」に通じるところから歯痛にご利益があったと伝えられていると記載されていた。

宝篋印塔は竜王山と思われる小高い山を約100m登ったところにあり、玉島笠岡道路が新設される脇で、その工事のためか周囲の木々は伐採され、開けた小高い山の頂上にあった。

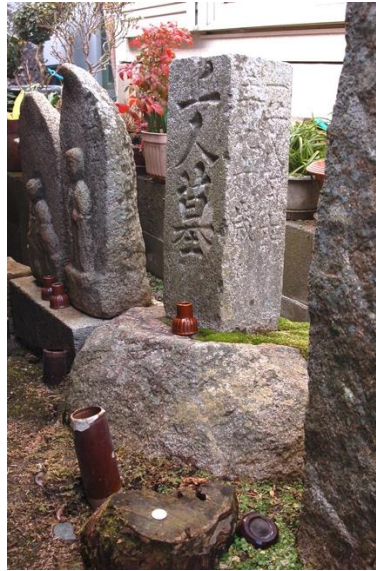
後日訪問時には看板も撤去され、更地に宝篋印塔が設置されていた。



(3) 歯いたの神（上人墓）、（矢掛町小林）

矢掛町史民俗編³⁰⁾によると小林の対馬屋旅館の裏の地蔵堂跡に地蔵様と名号碑に並んで、上が半分折れてなくなった上人墓と刻んだ石碑がある。歯がいたむのに願をかけると治るといって今も参詣人がある。これは昔、矢掛の駅から川辺の駅に行く途中に書類をなくし、その責任を負って死んだ人の墓だと伝えていると記載されている。

訪ねると旧山陽道から北に数十メートル入った左側で、民家の軒下に上部が折れ、誰の墓か分らない「上人墓」の石碑があった。近所の女性によると謂れは知らないが、掃除とお参りをしている。また、昔は年寄りが多くお参りしていたが、最近は遠くから来た若い女性が多くお参りしていると話してくれた。（北緯 34° 37'27"、東経 133° 35'4"）

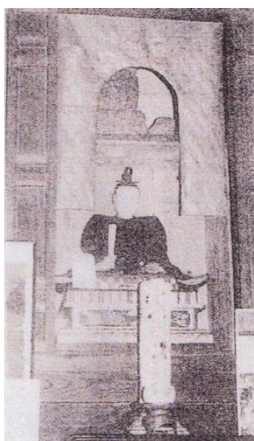
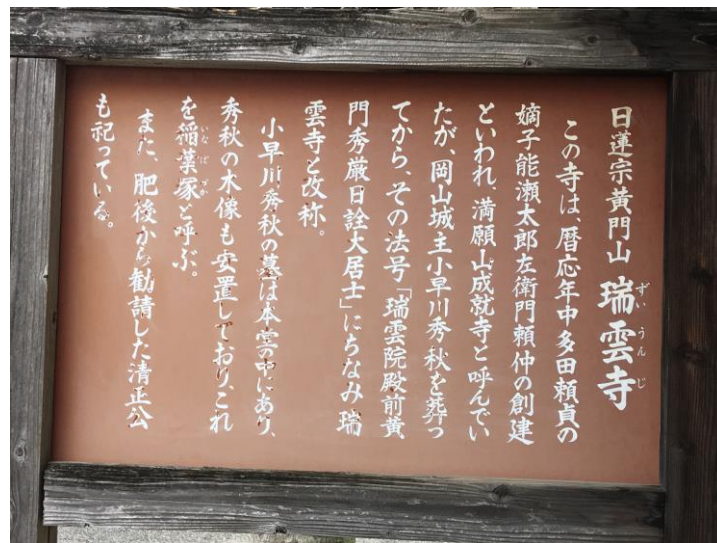


(5) 小早川秀秋墓（岡山市番町瑞雲寺）

中山³¹⁾によると「秀秋の墓前に供へた箸が歯痛に効があるとして、往時より参詣者の後が絶えないが、之は秀秋が生来歯質が悪く、歯痛で難儀したのでそれを封じるのだといふ」と記載されている。

また、森⁴⁾によれば岡山市番町瑞雲寺に小早川の遺霊を祀っている。その墓を歯神と呼んで、祈願すると痛む歯が治るという信仰があり、戦後、墓所は堂内に移された。本堂は本尊釈迦牟尼仏を祀り、その横の壇上に墓碑名があり、その前に秀秋の座像が祀られている。住職の母堂の話によると、箸の伝承は聞いたことがないが、大きな井茶碗に水を入れて、小さい柄杓に水を汲んで墓に供え、その水を痛む歯のところに付けていた。また、小石に名前、年齢、性別を書いてあった石がたくさん供えられていたと記載されていた。

訪れて、寺の説明板によると、岡山城主小早川秀秋を祀っている。墓は本堂内にあり秀秋の木像も安置しており、これを稲葉塚と呼ぶ。本堂は年に1度10月28日に開かれるということで直接拝見はできなかった。



小早川秀秋墓
 森⁴⁾の複写

(6) 治歯痛精霊墓（苫田郡上齋原村）

上齋原村史^{32,33)}によれば、昔、六部という背中に観音様、腰にちんちん鐘をつけて村々を歩くお坊さんがあった。ある時、この六部が、峠を越す時に、急に歯が痛みだし、もだえ苦しみ、薬もなく峠で一命を落とした。死ぬ時、「わしは死んでも背中の観音様は死なん。この観音様の力をもってのちのちの歯の痛む人を、治してやる」と言ってこの世を去った。この言い伝えで、村の人々が人形峠にお墓を作り、「治歯痛精霊」と記し、ご祈念をした。明治37年のことである。その後、歯の痛む人々が男は白、女は赤の小さなのぼりをたてて願を掛けお陰を授かった。今でも歯の痛む人はお参りしている。また、墓碑は全高110センチ（地上80センチ余り）、幅44センチある。墓石には「治歯痛精霊 世話人小椋国治 明治39年7月」と記載されている。

森⁴⁾によれば岡山県上齋原村と鳥取県三朝町の県境に、ウラン鉱石で有名な人形峠があり、この峠に六十六部の墓があり、歯の神様として信仰されていた。旧国道179号線の県境よりやや鳥取県側に寄った所の雑木林の中に自然石の割り石が立っている。この表面を削って「治歯精霊墓」とあった。その後、この墓は歯神さんと呼ばれて歯の痛む人々に信仰されて、祈願したというと記載されている。

岡山県と鳥取県境の人形峠を訪れ、原子力産業の職員の方に「治歯痛精霊墓」の森⁴⁾の文献を示すと、「工事の時、それらしいものを見たことがあった」とのことにて案内して頂いた。原子力産業の裏の清水高原へのトレッキングコースを約30m登り、脇道を約30m登ったところから、更に南向きの斜面を約5m下った林の中に、囲みはなかったが、前方に傾斜した石碑があった。日本酒の瓶が備えられ、前傾の碑面から「治歯痛精霊」が読み取れた。

（北緯 35° 18'51"、東経 133° 55'52" 高度 750m、南西 225 度向き）

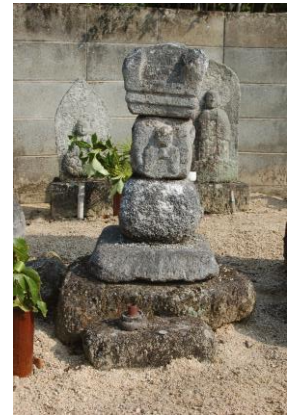


(6) 伊達大蔵の墓

大島³⁴⁾によれば、井原市下出部町道城には伊達大蔵の墓と呼ばれる宝篋印塔があり、歯痛に効くと記載があった。令和4年9月26日著者に電話で、歯痛に効く由来を尋ねたが、近所の人たちの話のようだ。また、ふるさと出部³⁵⁾、わが町出部³⁶⁾によれば、昔から歯痛によくきくと言われ、多くの人がお参りし、治ったら黒豆をいって供えたそうです。歯ぎしりして悲しい負け戦で倒れたためでしょうかと記載されていた。

実際、訪れると草もなく整備された墓地で、戸木荒神山城主伊達公墳墓の碑があり、墓の列の中に大島³³⁾が記載した宝篋印塔があった。4面に地蔵様の彫り込みがあった。

(北緯 34° 58' 96" 、東経 133° 45' 19")



8. 首塚

戸部²¹⁾によれば災難にあったり、自分の意に反して非業の死を遂げた人の首を埋葬した場所にまつわる首塚の伝説は全国各地にある。その首塚にまつわる信仰から生まれたのが首塚大明神である。呼び方も土地によって一定でなく「〇〇の首塚」「首塚権現」などと、主にその地に因縁のある者の名で呼ばれ信仰されている場合もある。

(1) 金谷首塚様 (和気郡吉永町)

吉永町誌民族編³⁷⁾によれば金谷地区の旧道と小川との間に「首塚」があり、波阿弥陀仏と刻まれた大きな自然石がある。これは戦乱の世に、たくさんの首がここに流れ着いたところで、この首を供養したところと伝えられている。首塚は首から上の病気にご利益があると言われる。

鶴藤・竹内³⁸⁾によると金谷首塚様は、首から上の病気を直してくださる。また、頭、目、鼻、耳、口などであるが、心臓病を祈願するものもある。河原で卵形のすべすべした綺麗な石を拾い、願いごとと、住所、氏名、祈願日を墨書きして納めると記載されている。

訪問日には、花筒に新鮮な花が供られ、「金谷首塚様」の幟もたなびき、ロウソク、線香も使用可能な状態、近所の方が今でも管理されている様子がうかがえた。南無阿弥陀仏の石碑の周りに白っぽい卵形の多数の石が敷かれ、願いごとらしく記載されたものも多数見られた。後には首から上のお地蔵様が3体供られ、仏壇状のものや花も祀られていた。線香、ロウソクを供えてお詣りした。



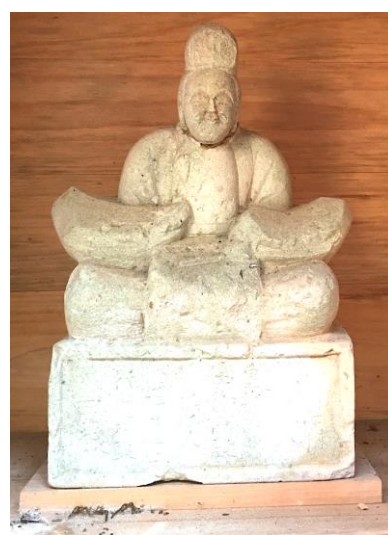
9. 首無し地蔵

(1) 首なし地蔵（津山市宮部下）

立石³⁹⁾によると首なし地蔵という首のない地蔵（未確認）が坪井から宮部へ越すイシガタワに祀ってある。それは太夫のようでもある。ある男がうずいてある時死んだ。その男を祀っている。これにまいると歯痛がなおると記載されている。

鏡野町歯科医椋代達典先生に尋ねると作州街道から宮部下地区に超える道沿いに石が埤池を過ぎ、右の道沿いに祠があり、首なし地蔵と言うが、お地蔵さんに首があったと情報を得て、2020年1月11日訪れた。石が埤池を過ぎ道のために山が切り通しになった右の山に祠が見えた。落ち葉を踏みしめお参りするとお正月のしめ飾りが2個飾られ、内部にはお餅も祀られていた。木製の祠で下はボルトで固定され、両開きの扉があったが、変形のためか完全には閉まらなかった。座ったお地蔵さんは確かに首に切れ目があり、頭と胴体は別物で首なし地蔵に頭部をくっつけたように思われた。

（北緯 35° 4'12"、東経 133° 52' 25"、南 160° 向き、高度 210m）



10. お守り

(1) 日本第一熊野神社（倉敷市林）

五流尊院の後鳥羽上皇宝塔（昭和 45, 46 年の解体修理の際、後鳥羽上皇の歯を確認⁴⁰⁾を訪ねた時、となりのこの神社にお参りしてみると売店に、口のお守りと歯のお守りが販売されていた。

神社のパンフレットによると、600 年半ばに生まれた役行者が紀州の熊野や大峯野山々で修業を重ね、神秘的な力で衆生救済に携わった。しかし民衆を惑わすとして伊豆大島に流されたが、一部の役行者が難を逃れ、701 年倉敷市林に鎮座し、祭祀した。1868 年王政復古により、神仏分離令が発令され、宗教法人熊野神社、宗教法人修験道 5 流尊瀧院に分離したと記載されている。

このお守りの由来について売店の女性に尋ねたがはっきりせず、「全身の病気のお守りがありますよ」とのことで、神社と口、歯のお守りとの関係は不明であった。



11. その他（9 か所、不明 4 箇所）

(1) 最上稲荷“77 末社”第 15 番最上位 法屋天王

最上稲荷山妙教寺の HP から観光参拝コースの中の最上稲荷“77 末社”の第 15 番として法屋天王が祀られ、ご威徳・口中に口腔病快癒が上がっていたので訪問した。石碑と説明板が見られた。

鶴藤、竹内³⁸⁾によれば、岡山市の最上稲荷は日本 3 大稲荷の 1 社で、元来、稲荷は稲生の神、稲荷神で、キツネが使者（お使い）で、稲生の神は田の神で、冬は山に、春には田に降り、秋の収穫まで稲作を守護する。最上稲荷は、歴史的には最上位経王大菩薩を本尊としたが、後、日蓮宗に改め、昭和 29 年最上稲荷教総本山妙教寺となり、法華経を基に、慈悲の和を教養とし、全ての収穫（最上）への道を歩むことを実践項目としている。商売繁盛の神として、正月 3 が日の参詣者は約 100 万人と記載されている。寺の説明によると 77 末社は最上稲荷御本尊にお任せする諸天王が祀られているとのことである。

しかし、歯との関係は記載なく、売店の職員の方にお尋ねしても、後日妙教寺の方にお尋ねしても由来は不明であった。

(北緯 34° 42' 35"、東経 133° 49' 60"、南東 157°、高度 70m,)



(2) 最上稲荷“77 末社”第 57 番最正位 白崎天王

最上稲荷神社の 77 末社の中の第 57 番最正位 白崎天王が祀られ、ご威徳・歯痛に歯病平癒が上がっていた。売店の職員の方にお尋ねしても、後日妙教寺の方にお尋ねしても歯との関係は不明であった。

(北緯 34° 42' 37"、東経 133° 50' 2"、東 133°、高度 70m,)



(3) 大成の歯神様（美咲町向山）

旭町誌^{9,10)}によると向山に大成の歯神様という小さな祠と手水鉢があり、歯痛に霊験があると言われてきた。昔は、近くに畑や田圃のある開けた所で、参拝者も多く、願かけ、願開きのための千本幟がたくさん立っていた。今は参拝者もまばらになったので、地主の人が供え物をして祀っていると記載されている。

地主の松本伸治様によるとおば様が、歯が痛い時お参りしたところ歯痛が軽快したので祠を作ったとのこと。以後、松本様が毎年正月 5 日に急な山道をお祀りされており、今回は松本様がユンボで道を緩やかに広げて下さり、拝見できた。岩の上にかわらでできた祠があり、その下方に苔生した手水鉢があった。

この例は、三浦¹⁹⁾によればかわらくド呼ばれるものと思われる。備南平野や瀬戸内の島々に祀られているとのことである。

（北緯 35° 0' 31"、東経 133° 51' 1"）



ユンボで道拡幅

(4) 歯の神様（真庭市中山）

出雲街道勝山宿の会主催の HP 大山みちを歩こう会（第 6 区）立石～延助間の記事の中に中山峠・中山天王宮という記載があり、その中に「立石の四角を県道より右を分岐して、中山道の急坂を 400m 登ると、中山たわの頂上に至り、その少し先へ「中山天王様」の小さな鳥居があり、その奥へ天王様の祠が鎮座している。中山地区の氏神様であり、歯の神様と伝えられています」と記載されている。尋ねて行き、経緯を近くの片山商店の方に尋ねると「この天王様は近くの植本建設さんが建てた」とのことで、植本建設様に尋ねると「中山天王様は歯の神様ではなく、歯の神様はもう少し下ったところの共同墓地の入り口の手前にある」とのことで改めて訪問した。

令和 2 年 11 月 14 日に植本建設で教えてもらった通りに中山天王様から約 200m 山道を下り左側の共同墓地の入り口の手前で 4 段の階段の上に約 1m の高さの石碑が見えた。お参りがあるようで笹に埋もれるように花筒、線香立てが供えられていた。石碑はお地蔵様と言っても良いくらいの形で頭と上半身のように思えたが、石碑に文字などの彫り込みは見られなかった。

（北緯 35° 13' 32" 、東経 133° 40' 34" 、南 177° 、高度 480m）

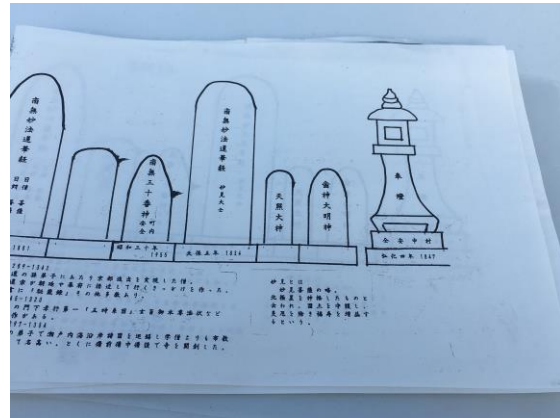


(5) 歯神大明神（岡山市島田本村祖師堂跡）

「岡山市南部の地神・水神など集成」の HP では岡山市島田本町島田コミュニティハウスの溶けた地神塔。青黒いほか、特徴も何も判らない。他にもいくつか石があるが、その中に「歯の神？」の記載があった。

平成 31 年 8 月 31 日撮影の記事によると島田コミュニティハウスはおそらく島田本町祖師堂の後進であろう。石塔類は向かって左から、題目石、不明石塔、三十番神、題目石、地神塔、歯神大明神が並ぶと記載されていた。

令和2年10月31日訪問した際にはコミュニティハウスは無く、歯神大明神の石碑の左側に看板のみ置かれていた。歯神大明神の石碑も文字が読みづらくなっていた。近所の裾分由美子様にお話をお伺いし、下左側の配置図を見せて頂き、右から2番目に「歯神大明神」の記載はあったが、由来はご存知なかった。
(北緯 34° 39' 44" 、東経 133° 54' 24" 、東 99° 向き、高度 0m)



裾分由美子様より



歯神大明神

(6) 萩森様（美作市万善）＊未確認

立石⁴¹⁾及び「さくとう山の学校」のHPによれば「近くに萩森様と呼ばれる歯痛をなおす社があり、旧福山中学校の向かいに当たるところで、ヒノキの大木が十数本あり、その中に小さなほこらがあり、子供のころ、歯が痛むと萩森様へ行けといわれ、よく参拝したとされている。」との記載があり、「さくとう山の学校」（旧福山中学校跡）を訪ね、青山様にお尋ねしたがはっきりせず、近所の方にも尋ねて頂いたが解らなかったと

後日連絡があった。

後日、作東町役場に尋ねたところ、令和元年 12 月美作市農業振興課神浦克史様より「ふるさとを語ろう作東の遺跡と民話」⁴²⁾の「萩森さん」の部分を紹介頂いた。それにも同様の内容が書かれており、地図が掲載されていた。



ふるさとを語ろう作東の遺跡と民話

⁴²⁾複写 ⑤ 萩森様

(7) ださい (大宰) さま (玉野市山田) *未確認

玉野市立山田小学校の HP に「ださいさま」歯痛に効験ありの記載があり、玉野市教育委員会に尋ねたところ、玉野市立山田小学校図書館所蔵の「わが町歴史探訪」⁴³⁾を示して頂いた。それによると四ノ御神社 (白石) の説明文中に、「神社から約 1km 南西に、歯痛に効験ありと祈願されていたださい (大宰) 様の石塔がある」と記載、写真があったが、玉野市教育委員会でも実際は不明とのことであった。

四ノ御神社を起点に、それらしい所を 2 度訪問してみたが分からなかった。



「わが町歴史探訪」⁴³⁾より複写

(8) 石食い様＊未確認

立石³⁹⁾によれば宮部下部落にある岩に祀ってある石食い様にまいると、歯痛が治り丈夫になるとの記載があったが、津山市に尋ねても、判明できなかった。また、岡山民俗学会を通して、著者の立石憲利様に尋ねて頂いたが、「60年も前に老人にお聞きしたことなので、今は不明である。」とのことであった。

(9) はぐさ地蔵（奈義町）＊未確認

立石、なぎ昔話語りの会²³⁾によれば、滝本隠居土居のあみだ堂にまつられて、はぐさ（歯槽膿漏）のときや、歯痛に祈ると良いという。

奈義町文化センター寺坂信也様に調べて頂いたところ個人のお宅にあり、現在は空き家で立ち入りができない。小さな社に入るようなかわいいお地蔵さんだそう。

まとめ

岡山県の歯の神様・仏様を森⁴⁾の分類を参考に分類し、白山神社関係 5 か所、歯の神仏になった人 6 か所、樹木、石か所 4 か所、歯痛地蔵 3 か所、如意輪観音あるいは弥勒菩薩、あごなし地蔵、九頭龍権現各 2 か所、首塚、首無し地蔵 1 か所、お守り 1 か所、その他 9 か所、計 36 か所の存在を認め記載した。しかし、9 か所は確定できなかった。

これをまとめて行く中で面白いと思われたのは白山神社関係である。白山神社は全国に 3000 以上あり、白山神社の総本宮は石川県白山市の白山比咩神社である。全国の多くの白山神社は歯の神様として知られ、京都や新潟の白山神社でもお守りが作られ、岡山県でも 5 か所の白山神社が歯の神様として記載されている。しかし、総本宮の白山比咩神社の地元では歯のご利益について知る人は少なかった。しかし、小松市中山春比古先生よりお送りいただいた資料によると、白山比咩神社が令和 4 年 3 月 12 日地方の白山神社に遅れて総本宮に歯のお守り「白癒守」(写真)を作り、発売を始めたというのは非常に面白いことと思われる。

岡山県の歯の神様、仏様を訪ねてみたが、やはり、科学の発達、局所麻酔の開発により衰退する傾向にあり、記録を残すことを目的にまとめてみた。追加され、完全なものになることを期待する。



石川県白山市白山比咩神社「白癒守」

「白癒守」：開口状態、歯があり

文 献

- 1) 成田令博：歯痛のための祈りと呪い、P47-50、抜歯の文化史、口腔保健協会、昭和 58 年.
- 2) 小林富次郎：よはい草、思文閣出版、昭和 46 年再販
- 3) 神津文雄：民族への旅歯の神様、銀河書房、P9,207～218、1991.
- 4) 森 納編著：歯の民族—民間信仰・俗信・くすり—、p1～106、総合印刷 出版、平成 10 年
- 5) 高木道弘：宮崎県における歯の民間医療（一）、みやざき民俗第 53 号、P73～83、平成 11 年、（二）第 54 号、P43～53、平成 13 年.
- 6) 新村 出編：広辞苑、第 2 版、はくさ、P1774、岩波書店、昭和 45 年。
- 7) 立石憲利：新修津山市史別巻つやまの民話、207 白山神社、253 首なし地蔵、P388,422、平成 30 年
- 8) 大崎地区歴史を考える会：大崎の歴史と文化神社編、2 白山神社、P4～6、平成 23 年.
- 9) 旭町：旭町誌（地区誌編）、P84,85,136,206、平成 8 年.
- 10) 旭町：旭町誌（民俗編）、P556、平成 9 年.
- 11) 井原市：九頭龍権現、井原市史VI民俗編、P713,861、平成 13 年.
- 12) 岡山民俗学会：九頭龍大権現、二川の風俗、p63,64、昭和 35 年.
- 13) 有漢町文化財保護委員会：民間医療、有漢の民俗、P235～238、昭和 55 年
- 14) 岡山古蹟研究所：岡山名所図絵稿本、P35,36、昭和 37 年復刻
- 15) 市川俊介：本蓮寺、岡山文庫 82 岡山の神社仏閣、P92～94、1978
- 16) 大島まちづくり協議会：十地の「おこり落とし神」・「まち協あずまや」、大島歴史散歩、P64、平成 26 年
- 17) 岡山民俗学会：加茂川町の民俗、P435～437、平成 2 年
- 18) 三浦秀有：クド、岡山文庫 73 岡山の民間信仰、P19、日本文教出版、昭和 57 年.
- 19) 吉備中央町図書館、立石憲利編：神仏にまつわる話、岡山「へその町」の民話—岡山県吉備中央町の探訪記録、p310,311、2017
- 20) 戸部民夫：あごなし地蔵、日本の神々、P100、1998 年.
- 21) 長谷川 明：民事に関する民俗資料、岡山民俗第 6 号、P94～97、昭和 28 年
- 22) 立石憲利、なぎ昔語りの会：なぎの民話、26 あごなし地蔵、27 はぐさじぞう P440、平成 26 年
- 23) 哲西町文化財保護委員会：歯痛仏、哲西の神ほとけ、哲西町文化財シリーズ No4、P85、昭和 51 年.
- 24) 哲西町民俗研究会：歯痛仏（はいたぼとけ）、やたべ No20、P1、1987.

- 25) 山陽新聞社：歯痛仏、岡山のごりやくさんー生きている民間信仰一、P225-227、平成元年.
- 26) 久米郡教育会：名蹟、伊利谷河内守の墓（佐良山村大字高尾）、久米郡誌 P163、大正 12 年
- 27) いーつやまドットコム：津山瓦版：篠山城跡、2011 年
- 28) 鴨方町：墓地にある小米石五輪塔、鴨方町史民俗編 P580、昭和 60 年
- 29) 矢掛町：歯いたの神、矢掛町史民俗編、P237、昭和 55 年
- 30) 中山太郎：ハガミ、日本民俗学辞典、P780、梧桐書院、昭和 16 年
- 31) 上斎原村：上斎原村史民俗編、伝説資料 P1173,1174、平成 6 年
- 32) 上斎原村：上斎原村史地区誌、遺跡・墳墓、P159,160、平成 13 年
- 33) 大島千鶴：井原石造物歴史散歩、岡山文庫 298、P108、平成 27 年.
- 34) 井原市出部小学校：郷土読本ふるさと出部、P84, 85、平成 11 年.
- 35) わが町出部編集委員会：大曲の腰折れ地蔵、P84,85、わが町出部、出部公民館、平成 11 年.
- 36) 吉永町：民俗知識、吉永町誌民俗編、P554,555、昭和 59 年
- 37) 鶴藤鹿忠、竹内平吉郎：置き薬、岡山文庫 175 岡山の民間療法（下）P155,156、平成 7 年
- 38) 立石憲利：55 年前は（泣き女）がいた、六信仰、p76,77、吉備人出版、2010.
- 39) 林 泉：五流尊龍院石造宝塔、岡山の歴史と伝説を訪ねて、P245、1988。
- 40) 立石憲利美作市の民話調査編集実行委員会：106 萩森さん、美作市教育委員会、美作市の民話、P482、2022 年.
- 41) 岡山県作東町町民室：ふるさとを語ろう作東の遺跡と民話、⑤ 萩森さん、P62,65、昭和 58 年
- 42) やまだ・ごかん子供楽級：ださいさま、わが町歴史探訪、平成 17 年